

# 我が担当区の安全活動について

新城営林署 竹本 真一

私達、三都橋担当区造林班は、昭和53年6月ミニバスの導入により各担当区、事業所などから造林手、旧土木手など8名により再編成された新しい班である。

お互いあまり気心もわからぬ者どうして、また造林作業は初めてという人や、年齢差が20才も違う若い人から年寄りまでの、寄り集まりのなかで、私が班長に任命され、一時はどうなるかと不安と戸惑いがあったが、新しい班でスタートすると同時に、「明るく働きがいのある職場づくりに努めよう」を安全目標に定め、全員がこの目標達成のため努力することを誓いあった。班長としてこの目標達成のため、先ず全員の意思疎通を図ることが第一と考え、常に問題点を話し合い、その対策を全員で考え、解決しながら班の融和を図り、安全の確保と作業能率の向上により、よりよい山づくりに努力を重ねてきました。この結果、安全意識が高揚し、昭和50年10月1日より続いている、我が担当区の無災害記録を引き続き守りぬき、班のまとまりもでき、何につけても他の造林班に負けない造林班になったと確信している。

昭和54年度は新城営林署安全衛生活動実施要領にもとづき、新年度の安全活動を反省し、より充実した安全活動で、活力ある山づくりに努めようと「安全活動を充実し、働きがいのある職場づくりに努めよう」を安全目標とし、この目標達成のため、

1. 安全確保と作業能率の向上に努めよう。
2. 全員で考え、全員で実践しよう。
3. 健康管理に努め私傷病をゼロとしよう。

の具体的な実施目標をたて、全員が一丸となって取り組むことを誓いあった。

安全活動は、形式的に行われ、また伝達方式となり一方通行になり勝だが、私達は「自分の安全は自分で守る」の基本姿勢をもち、安全活動と真剣に取り組み、充実した活動、話し合いとなるよう努め、全員に意見を出させ、出された意見は必ず検討し、納得させるなど大切にし、人の和に結びつける努力をした。

また従来からの慣習作業方法を見直し、安全作業、作業能率の向上に努めているが、この慣習を打ち破るには苦勞を要した。今まで実行している作業方法、使用している作業用具が一番よいものと考え勝ちであるが、小さな改善意見でも全員で検討し、作業に取り入れ、その結果を反省し、更に改善することによりよりよいものが生まれてくる。

道具の不便さ、不安全な作業方法からの改善を全員で考え、出来上ったものが収穫調査工具箱と打植印用の立木削皮鎌及び枝打鉋の改良である。出来上ってしまうとこれだけのものだが、これを全員で考

え検討を加える過程が楽しく、班の融和につながり、安全意識の向上に大きな効果を上げている。

昭和54年度の新城営林署で調査極印を必要とする立木調査面積は約88haで、そのうち私達造林班は30haの調査を実行しており、そのほとんどが間伐調査である。

左手に極印、右手に鉋を持ちスス竹のなかを1本1本極印を打つ作業は疲労度も大きく、不安全な動作も多く、当署においても昭和51年度に立木調査中の鉋による災害が1件発生した。

この調査用具を使用し調査を実行したが、疲労度も少なく、不安全動作がなくなり、作業工程も上がり、署の収穫研修でその効果を発表し、各担当区で利用するよう呼びかけた。

また、当署の造林事業のなかで枝打作業の労力が占める割合は大きく、私達造林班は約40haの枝打を実行している。優良無節の柱材を生産をするためには枝打ち技術が要求される重要な作業である。

1回目の枝打ちは枝打鉋と新勝鎌を併用し、道具を使い分けることにより無理な姿勢で作業することもなくなり、太い枝は下からの軽く突き上げをしてから上方より打ち落とすことになるが、枝打鉋の背の部分に刀をつけたことによりこの作業が容易となり、無理で不安全な姿勢による作業が排除された。この鉋を各担当区で使用した意見を集約中のものである。

2回目の枝打ちについては従来は梯子を主体に作業を進めていたが、山側に梯子をすえつけ、これに登り作業を実行することは不安全な状態がたびたび発生し、梯子の移動に労力を費し、疲労度の高い作業であったが、全員で検討し新勝鎌による二人組作業としたことにより首の痛みも軽減され、安全・功  
程面でもよい結果となり疲労度も少なくなっている。これらのことも実行してみると当然のことなの  
だが、従来の慣習を打ち破り、全員で考え検討したことに意義があり、安全作業が定着することに結  
びついている。

働く者にとっては身体が資本であり、健康は生活の源動力をなすもので、病気は家庭も職場も暗くし、作業の進行を遅らせ、また能率を低下させる。

私達造林班の昭和58年度の私傷病による休務日数は延63日であった。昭和54年度は私傷病休務日数0を目指して互いに健康・体調に注意し合い、体調に合せた作業配置を考慮し、助け合って作業を進め「疲労は翌日に持ち越さない」を合言葉に働いてきた結果、現在まで私傷病による休務者は0で、昭和58年度に比べ枝打に換算すると5ha分の仕事が余分に出来た事になり、私傷病が作業の進捗に大きく影響することが解明された。

さらにこの記録を伸すため家族も含めた健康管理を進めている。

これまで述べてきた私達造林班の安全活動は、どこの造林班でも実行されている平凡なもので、何も目新しいものではなく、この場に発表できるような内容ではない。より充実した安全活動を実行されている造林班のあることも見聞している。

しかし昭和58年6月にスタートした新しい私達の造林班が、他の造林班に負けないう全員が心を一つにして安全活動と取り組んでいることを御理解いただきたい。

無災害延時間も昭和54年12月末で129,218時間、4年間無災害記録を樹立した。

この発表を節として、さらに記録を伸すよう全員で考え、全員で実践しながら、常に安全を考え、マ  
ンネリ化を排除、作業方法、作業用具の改善などに努力してゆく考えである。



写真説明

収獲調査道具箱

左より極印・道具箱・削皮鎌・枝打用両刃鉋